

日記にあらわれた

わが国の歯科医療

<大乗院寺社雑事記(1068—1477), 玉葉(1164—1200),
明月記(1180—1235), 多聞院日記(1478—1591), 兼見卿
記(1570—1592), 鵜斎日録(1787—1805). >

杉 本 茂 春*

1

明治以前におけるわが国の歯科医療に関する資料は少く、殊に、時代をさかのぼるにつれて、歯科関係資料はいよいよ少く、川上為次郎、山田平太氏らの業績の他には、古記録の渉猟さえ充分におこなわれていない現状で往昔の歯科事情を明かにすることは困難とされている。

わたくしは、たまたま、角川書店刊多聞院日記を披見して、特に、筆者僧英俊が歯科に素朴な関心をよせ、歯科医療にも手を染めようとした記録を発見した。

また、おなじく、大乗院寺社雑事記12巻を披見して、歯の衛生に関する素朴な行事が行われていたことを知った。

さらに、玉葉を披見し国書刊行会刊明月記3巻を披見して、医学体系のなかの歯科学の他に、医学体系外、すなわち民間療法的歯科医療の併存したことを知った。

また、未公刊ながら東大史料編纂所所蔵の兼見卿記18冊のうち1部を披見することが出来た。

また、鵜斎日録にも、わずか1項目ながら歯科記述を発見した。

その成果は、歯学史研究の1方法として興味ふかいものであったので報告する。配列は年代順とした。

2

大乗院寺社雑事記

「興福寺及び春日社関係の事件を大乗院に於て執筆せる日々の記である。収むる所宝徳2年より大永7年に至る凡80年、260巻に及ぶ大部のものである。而して其の内容が応仁の大乱を中心とし

て、政治、経済、宗教、文学、芸術等、社会万般に亘る推移を、非凡なる観察と、精緻なる用筆を以て描写せられたる、稀有の史料たることは学界既に定評がある」(刊行の趣旨より)

尋尊大僧正記の中に「歯固」の記事がある。その他、如来歯舍利の記録も発見できた。

長禄2年(1458)1月1日 雨下

日中歯固白散供之、予付衣、手長藤千代直垂、役人慶有等身衣、指貫……

長禄3年(1459)1月1日 天晴

日中歯固等如例

長禄4年(1460)1月1日 天晴

日中白散、歯固、節供等如例

寛正元年(1460)12月晦日

御歯固・円鏡一面・四種酒肴・一瓶御後見進之、役人慶有自今夜参候了。

寛正2年(1461)1月

日中歯固節供等如例

寛正3年(1462)1月1日

日中歯固節供等如例 寺務并予付衣同時行之。

寛正3年(1462)10月4日

知足坊・蓮成院、四恩院三蔵伝舍利相伝次第

玄奘三蔵御舍利 金色1粒 彼相伝流記云

如来歯舍利貞、長一寸八分横七分、根二

また……

寛正4年(1463)1月1日

日中歯固節供等如常

寛正4年(1463)12月晦日

御歯固両所分御後見進之

寛正6年(1465)1月1日昨日大雪下

御歯固両所分、自夜前御後見進置之如例

寛正6年(1465)1月3日

歯固・白散当参以下如元日……

* Shigeharu SUGIMOTO 大阪歯科大学講師

寛正 7 年（1466）1 月 1 日
……日中齒固・白散・節供・高供御等如例
文正 2 年（1467）1 月 1 日
白散・齒固，節供如例
文正 2 年（1467）1 月 2 日
小供御・日中齒固・姫飯・中酒・御湯菓子御後
見進之
文正 2 年（1467）1 月 3 日
小供御・齒固等如前
文明 2 年（1470）1 月 1 日
白散・齒固・節供以下如例……
文明（1475）1 月 4 日
御齒固二面遣万歳方，珍重之旨返事到来
文明 7 年（1475）1 月朔日
白散・齒固・節供等如例……
文明 7 年（1475）1 月 4 日
両所齒固二面遣御師万歳御前方目出云々
文明 9 年（1477）12 月 30 日
御齒固進之
文明 10 年（1478）1 月朔日
日中白散・齒固等……
文明 10 年（1478）12 月 28 日
中屋御齒固之棚一新造之，出来，
文明 12 年（1480）1 月朔日
齒固，白散如例，御節供如例
文明 12 年（1480）1 月 3 日
小供御・日中・白散・齒固・節供高供御等如例
文明 13 年（1481）1 月大朔日
齒固，節供等如例……
文明 13（1481）1 月 2 日 朝雪下
齒固手長・役送如昨日
文明 13（1481）1 月 4 日
両所御齒固送遣拝殿御師万歳御前方，役人奉書
也
文明 15 年（1483）1 月 1 日 雪下
日中御齒固・節供等如例……
文明 19 年（1487）1 月 1 日 雨下
日中御齒固・節供・御供御等如例
長享 2 年（1488）1 月 1 日
日中齒固・御節供・高供御以下如例，
長享 3 年（1489）1 月 1 日

節供・齒固等如例
長享 3 年（1489）1 月 2 日
齒固等如例，初夜時分事了，夏供御同進之
延徳 2 年（1490）1 月 1 日
御齒固，節供・高供御等如例……
文明 16 年（1484）1 月 1 日 雪下
日中御齒固・節供・高供御等如例……
文明 16 年（1484）1 月 2 日
御齒固・高供御等如昨日，手長等同前
文明 18 年（1486）1 月 1 日 朝夕雨
日中御齒固・白散・節供如例同所行之
延徳 3 年（1489）1 月 1 日 雨下
御齒固・節供如例
延徳 4 年（1490）1 月 1 日
日中御齒固等節供如例
明応 2 年（1493）1 月 1 日
白散・御齒固等如例，手長孫菊丸，
明応 2 年（1493）1 月 2 日
齒固・白散以下如昨日
明応 2 年（1493）1 月 3 日
日中齒固等如例
明応 3 年（1494）1 月 1 日
御齒固・白散・御節供・高供御等如例……
明応 4 年（1495）1 月 1 日
日中齒固并節供高供御等如例，手長孫菊，
明応 5 年（1496）1 月 1 日 雨下
日中白散以下如例
明応 6 年（1497）1 月 1 日
小供御・御齒固，節供等如例
明応 6 年（1497）1 月 2 日
小供御・齒固等如例
明応 6 年（1497）1 月 3 日
齒固・節供等如例
明応 6 年（1497）10 月 30 日
御齒固両所分調進之

以上のように，数多の齒固の記事を摘記しているが，概して 1 月 1 日に諸儀式のひとつとしておこなったようである。

また，2 日・3 日と連続しておこなわれているときもある。その準備は 12 月 30 日に調えたようであ

る。

齒固とは、齒固餅とも、齒固の儀とも解せられる。

玉葉

玉葉は、藤原兼実の日記で玉海という。その内容は長寛2年より正治2年に至る30年余の間に至っている。

多くの歯科記述もみられる。

嘉応2年(1170)7月6日

憲基来針_二齒下_一……

嘉応3年(1171)2月27日

憲基来令_レ針_二齒下_一……

承安2年(1172)4月12日

憲基来、齒下加_レ針……

承安2年(1172)4月14日

知康来、口加_レ針……

承安3年(1173)1月1日

……主人座、西間奥疊、次主人_二召頭信朝臣_一、令_レ拘_二出小兒_一、民部大輔兼定取_レ餅、関白被_レ示_二氣色_一、余申云、三ヶ日料、一度可_レ候敷、将各別敷、命云、一度之儀不_レ可_レ然敷云々、余置_レ笏起取_レ餅、乍_二三枚_一取_レ之、不_レ取_レ蓋、令_レ戴_二若君頭上_一三度、……如_レ之置_二蓋中_一、取_二橘并齒固等各三_一置_二東面妻戸上_一長押上_一是定事也次若君抱入了。

承安3年(1173)1月29日

泰親朝臣、密告示云、去頃、春日御社有_二怪異_一、件御占、下官歳相_二当口舌病事_一重可_レ慎_レ之。

承安4年(1174)1月1日

……帰_レ家之後、小兒戴餅又齒固節供等如_レ恒。

承安5年(1175)1月1日

……小兒女、戴餅並齒固……

安元2年(1176)1月1日

帰_レ家其後節供不_レ著_レ之、次齒固此間、中将定能期臣来、暫談退出了。

安元2年(1176)1月3日

帰_レ家手水齒固、姫君戴餅等如_レ例……

安元2年(1176)7月3日

天晴、召_二権侍医憲康_一、令_レ針_二齒下_一

安元3年(1177)1月1日

天晴時々小雪、……午刻、先着_二吉直衣冠等_一、姫若戴餅、五歳、自_二今年_一、又所_レ供_二齒堅_一也、次改着_二諒闇直衣冠等_一有_二手水齒堅等事_一如件……

安元3年(1177)1月2日

天晴、今日不_二出行_一手水、齒堅、戴餅等如_二昨日_一……

安元3年(1177)1月3日

天晴、齒堅戴餅等如_二昨日_一……

治承元年(1177)8月15日

……所勞尚無_レ減、……召_二侍医頼基_一針_二齒下_一了

治承元年(1177)8月18日

所勞聊有_レ減未_レ及_二平癒_一頼基来、齒如_二一昨日_一

治承元年(1177)8月20日

大雨雷鳴、頼基来針_二齒下_一……

治承2年(1178)1月1日

……已刻、手水、齒固等如例、姫君自_二今年_一六歳、不_レ戴_レ餅……

治承2年(1178)2月24日

終日雨下、召_二侍医頼基_一針_二齒下_一

治承3年(1179)1月1日

天晴……帰家之後齒固如_レ恒余出行之間夫人并姫君等齒固了云々

承治3年(1179)1月2日

帰家之後手水、齒固等如_レ例……

承治3年(1179)1月3日

天晴、手水陪膳季長朝臣、齒固如_レ常

治承4年(1180)1月1日

未_レ晴……午刻先手水、次齒固、申刻着_二束帶_一……

承治4年(1180)1月2日

天晴風吹……今日有_二東宮御戴餅事_一去年依_二長治例_一自_レ院被_レ進_レ餅、今年仰_二内蔵寮_一召_二火切餅_一進_二朝餉_一……

治承5年(1181)1月1日

晴、……時々雪降、……手水、齒固如_レ常……

治承5年(1181)1月2日

天晴，手水，齒固，如_二昨日_一……

治承5年(1181)1月3日

天晴，手水，齒固，如_二昨日_一

養和2年(1182)1月1日

晴，……雖_レ備_二進齒堅_一不_レ取_二出前_一他

壽永2年(1183)1月1日

陰晴不_レ定……未刻，手水，陪膳範季朝臣齒堅如_レ例……

壽永2年(1183)1月2日

陰晴不_レ定……手水陪膳季長朝臣，齒堅如_レ昨……

壽永2年(1183)1月3日

天晴，手水陪膳高佐朝臣，齒堅如_レ例……

元暦元年(1184)9月3日

晴……余自_二今日_一欲_レ服_レ蒜，而口熱忽發，服藥停止了

元暦元年(1184)9月5日

陰……入_レ夜聊有_二病氣_一戌刻

元暦元年(1184)9月6日

晴 今日猶不快，然而依_二口熱更發_一召_二施藥院便頼基_一加_二針於齒下并舌等_一入_レ夜心地殊發動 終夜惱亂 病之体似_二当初之所勞_一事体不_レ輕歟……

元暦元年(1184)9月7日

晴 今日所勞殊增 大略如_レ不_レ弁_二前後_一仍卜筮 申_二本病之上邪之由_一雖_レ有_二可_一加持_二之議_一依_レ有_二溫氣_一七ヶ日之中不_レ能_二加持_一

元暦元年(1184)9月8日

晴 所勞同前……雖_二汗快出_一溫氣不_レ散

元暦元年(1184)10月18日

雨晴 女医博士經基來 取_二姫君并中將等齒_一又主税頭定長來 令_レ見医書等_一及_レ晚範季來 談世上事……

元暦2年(1185)1月2日

晴 齒固手水如_レ恒

文治2年(1186)1月2日

天晴 手水齒固如_レ常……

文治2年(1186)1月3日

天晴……手水齒固如_レ例

文治3年(1187)1月1日

朝間雪降 僅及_レ寸 午後雪止 天猶陰……

事訖婦入有_二齒固事_一……予侍男共取居齒固予付男共取_二居齒堅之具_一 事訖又侍等撤_レ之先例也

文治3年(1187)1月2日

天晴，已刻着_二直衣_一有_二手水事_一陪膳資泰朝臣 其儀如_二昨日_一 其後有_二齒堅事_一……

文治4年(1188)1月1日

晴，及_レ晚細雨間灑……婦_レ家之後，齒堅如_レ例 子細在_二七年記_一……

文治5年(1189)1月1日

陰晴不_レ定……及_レ晚齒堅如_レ例……

文治5年(1189)1月2日

天陰，終日雨降，已刻手水 陪膳光重朝臣 其次有_二齒堅事_一 今日人々不_レ來，其雨之故歟

文治5年(1189)1月3日

晴 已刻手水 陪膳以政朝臣 齒堅如_レ例

建久2年(1191)1月1日

晴 時々雨降 寅刻拜_二天地四方等_一如_レ例，午刻手水 陪膳季長朝臣，其後齒固，未刻人々少々來……

建久3年(1192)1月1日

晴……及_二深夜_一有_二手水，齒固，節供等事_一

建久3年(1192)1月2日

晴……午刻手水如_レ常陪膳業実朝臣 其後齒固……

建久6年(1195)1月1日

晴……小兒戴餅……

建久6年(1195)1月3日

天晴……小兒戴餅……

建久7年(1196)1月2日

晴，手水 陪膳以政朝臣 今日不_二出行_一齒固又如_レ常 小兒戴餅如_二昨日_一……

建久7年(1196)1月3日

陰 入_レ夜雨下，辰刻手水陪膳以政朝臣齒固小兒戴餅等 如_二昨日_一……

建久8年(1197)1月1日

天晴……齒固如_レ例，又小兒自_二去年_一向_二齒固_一与_二余并女房_一於_二同所_一供_レ之 戴餅又至_二干五歳有_一此儀 仍又八歳之元正_二ハ_一，並用_二兩事_一 故実也

建久8年(1197)1月2日

天晴……手水 齒堅等如_レ例……

建久8年(1197)1月3日

天晴 手水 齒堅如_レ昨 公卿少々来……

建久9年(1198)1月1日

天晴, 万福可_レ 樂春也 寅刻手水, 依_レ 可_レ
有_二日蝕_一也 陪膳季長朝臣, 依_二輕憚_一 無_二
四方拝事_一 齒堅 女房陪膳如_レ例……

建久10年(1199)1月1日

甚雷雨鳴殊甚 戌刻地震 此日 日蝕也……
入_レ夜 齒堅如_レ例……

とあって、齒固、齒堅の行事は1月1・2・3
日に亘っておこなわれていたようである。戴餅も
一定の年齢の小児に対しておこなわれたようであ
る。

齒下・舌に針治が試みられていた。

女医博士経基を召して、姫君ならびに中將らの
齒を取らせたことが記録されている。取齒の方法
は詳かではないが、一応、医師に齒を抜かせたこ
とが明かである。

明 月 記

藤原俊成の子、藤原定家、応保2年——仁治2
年(1162——1241)の日記で、照光記とも云う。

公武の間の諸事情が詳記されていると同時に齒
科記述もあり、その疾病歴と比較して興味ふかい
ものがある。

建暦2年(1212)8月14日

天陰……嵯峨自夜部又有重惱氣 有狂言等 口
痛キ人トフタリ坐タルなど云事也

建暦2年(1212)9月22日

天晴, 喚齒取老嫗令取齒……

健保元年(1213)4月15日

……老屈之余依病齒不出仕

建保元年(1213)4月18日

天晴, 齒病逐日難堪 遣召老嫗 先年度々来令
取折齒了, 雖欲穿取根不取得 大苦痛難堪 終
日痛之 以使問清成朝臣 此事不可驚 漸々可
減由示送……

健保元年(1213)12月8日

……左兵衛督隆清卿病獲麟 是酒之過度之故歟

大小便并自口出血云々……

嘉禄元年(1225)1月1日

……依吉日見齒固鏡 老後嬾而一日見之即撤…
…

嘉禄元年(1225)10月28日

心実房来 齒熱療治事等 雖加針血不出至極熱
氣如此云々……

嘉禄元年(1225)12月30日

……自去年如霜葉欲揺落之 或齒遂拔落了, 其
跡已如癰 無血氣 暮齡之令然 何為哉

嘉禄2年(1226)3月23日

……宜秋門院俄御不例之由……謁女房, 日来御
灸治爛之上, 又御齒令惱御, 一昨日有御蛭飼御
針等, 今日可有向飼之処 御頭風発御, 殊不快
御, 仍有御針許 二品卿被参之間 且被止蛭
未刻許俄御増氣之間有此披露 只今頗御落居…
…

嘉禄2年(1226)4月8日

未斜又蛭飼之

嘉禄2年(1226)4月14日

……未時許又齒飼蛭 依熱氣不休也

嘉禄2年(1226)8月12日

……未時許飼蛭 齒并耳後熱氣多所也

嘉禄2年(1226)8月21日

頭中將称齒痛籠居

安貞元年(1227)1月19日

……齒熱氣之余右目下腫, 連々熱氣可恐事也…
…

安貞元年(1227)1月20日

天晴, 面上腫如増……

安貞元年(1227)1月21日

……已時許侍医貞基来 加齒針 面腫塩可充由
示之 申時許心寂房来 煎菊桑蓮塩可洗由之
於針者不可然云々 彼是不同危思……

安貞元年(1227)9月30日

天晴, 未時許如例齒蛭飼 寒天之後依無蛭 此
療治不可叶 仍以不失時企之……

寛喜元年(1229)6月12日

終日天陰 午時許齒并手左 蛭飼 今年始

寛喜元年(1229)6月16日

……午後又蛭飼 齒少々 左手卅許

寛喜元年(1229) 9月18日

……昼念誦之後 口熱欲飼蛭 仍今日不果之…
…

寛喜元年(1229) 9月19日

天晴……未時蛭飼

寛喜元年(1229) 9月20日

天晴……未時蛭飼 昨日齒 今日下齒 依蛭少
昨日不終功……

寛嘉2年(1230) 1月1日

……巳時許齒固 即撤之……

寛喜2年(1230) 4月4日

……口熱発齒痛 朽齒極弱 付苧如少年嬰兒引
落了

寛喜2年(1230) 4月27日

……未時蛭飼齒頤 手振痛示合心寂房 猶可飼
由称之……

寛喜2年(1230) 4月29日

……未時如一昨日飼蛭……

寛喜2年(1230) 5月10日

朝天晴 昨日猶有熱氣 仍齒蛭飼……

寛喜2年(1230) 5月14日

朝天晴 未時許又蛭飼 日来齒有障過之

寛喜2年(1230) 8月30日

自夜天晴……未時口熱飼蛭……

寛喜2年(1230) 8月2日

天晴……未時蛭飼……

寛喜2年(1230) 8月4日

天晴……婦之後蛭飼 無蛭而不遣……

寛喜2年(1230) 11月25日

……午終許心寂房来 事外付減之由加詞但惡血
之充滿非飼蛭時極難治云々……

寛喜3年(1231) 1月1日

……巳時許見齒固鏡……

寛喜3年(1231) 7月2日

天晴……送摩牙於其宅云々……

貞永2年(1233) 1月1日

屋上雪白 山頂雲晴……着冠直衣見齒固鏡……

等、齒科疾患に関する記事を発見した。

抜歯に際して、取歯の語を使っていること、藤
原定家ほどの名家にして、取歯の老嫗を利用して

いること。

取歯の老嫗とは、すなわち、非医師であり民間
療法を施す歯抜師の祖形をうかがうことができる。

また、吸角水蛭業の祖形と云える蛭飼の療法も
興味あるものであった。

多聞院日記

全46巻、興福寺多聞院の日記で、文明10年(1278)
より、元和4年(1618)にいたる140年間にわたる
ものである。

その内容については、政治、社会、経済、宗
教、文芸、医術、土俗その他あらゆる方面に亘っ
てをり、その豊富な記事は、中世より近世への発
展過程をうかがい得べき史料(刊行の趣旨)とい
うことであるが、特に、第4巻、天文8年(1539)
7月から僧英俊の記する記事には、歯科に対する
素朴な関心が随所に記載されていて、49ヶ条を数
えることが出来た。

英俊の筆蹟の現存する唯一のものである。法隆
寺所蔵の愚迷発心集古写本奥書によると、天正15
年丁亥11月英俊70歳とあって、さいわいにその年
齒があきらかである。

多聞院日記のうち、僧英俊が歯科に対して素朴
な関心を示した部分は次の通りであるある。

天文8年(1539) 8月10日

本坊云、齒ノ痛ニハ毎朝念仏十反申テ、ヲウチ
堂ノ阿弥陀ニ回向スレハ堅ク能ク成也

永禄8年(1565) 12月14日

齒うック間薬調合了、人参卅文、ヲンシ十六
文、ニッケ二文也、前ノカケ四十二文遣了、又
六十二文かけ也、澄了。

永禄8年(1565) 12月27日

早旦ヨリ餅ツキ了。白米一石四斗、此内ヨリ多
門山おなへ殿へ五升カカミニメン・五升カカミ
ニメン三合モチ女四枚・同アカキ八枚・ハカタ
メ五枚・ヲシモチ百取之了。

永禄9年(1566) 2月17日

此十日許、愚身口中ニシニククサシ、腹中之煩
敷、不思議也。

永禄9年(1566)2月17日

此月始比より四・五度、愚齒落と度々夢ニ見了、可有憂愁先頭也、但妄想歟、且心慰計也、有待之身誰も不知事也。

永禄9年(1566)3月16日

今曉ニ愚齒五落ツ、夢心に小塔院へこむへし、懃行の声も聞やうにと持行処、坊主と思ふ人、故舜禪房にてありし……

永禄9年(1566)閏8月3日

今曉夢ニ、愚身齒落、大なる事四寸ほど、少も落と見了、先例大凶事也、いかが、

永禄9年(1566)10月25日

今日日中後睡中ニ、愚身むか齒落ると夢見了、大凶事也、いかが、

永禄10年(1567)11月7日

過夜夢ニ、愚身齒三枚自然ニ落ツト見了、先例大凶事也、如何々々、
田村治部不慮ニ此廿七日に死了、力落了、我執之仁、不便々々、

永禄11年(1568)正月23日

昨夜夢ニ、愚身ハノユルキケルカ抜了ト見ル、十一月ニ見シ時、田村治部死了、今年ハ誰ソ也、

永禄11年(1568)2月10日

昨夜夢ニ神前南門辺ニテ愚身二度 ニーツツ一夜ノ内ニ落ト見了、先例不吉、いかが、田中藏人佐・狛加賀死了、

永禄11年(1568)3月16日

十六日、先夜夢ニ、少きオクハーツ抜了、其後又大なる向齒落了、又可有凶事、如何、

永禄11年(1568)11月24日

一昨日廿二日、夢ニ愚齒四枚落ト見了、先例不吉、如何、

永禄12年(1569)3月1日

小舌ノ秘針アリ、左手ノ大指四番目、小指ヨリ二番目ノユヒノサキノ皮ノスチノ丸クマワリタル所ヲソトハネヤブリテ、血ヲタラシテ吸ヘハヤカテナアル也ト、行賢・得業ノ説、

永禄12年(1569)3月7日

宝蔵院虫食齒ノ薬妙薬存知申請新二郎称宜へ遣了、可尋習者也、

永禄12年(1569)11月27日

廿七日、昨夜夢ニ、愚身ムカハ一段大ナル一枚抜ト見了、先例不吉、如何、

永禄12年(1569)12月8日

昨日夢ニ、ヲクハーツ妙徳院ノ雜舎ノ辰ミスミ南向ニテ抜ルト見了、先例不吉、如何、

永禄12年(1569)12月18日

去十七日愚身オク齒抜ルト夢見了、先例不吉、去月ノ末ニモ見了、

永禄13年(1570)1月4日

昼寝夢ニ、ムカハ上ノ方落ト見、旧冬ヨリ度々見之、先例悪シ、如何、

元亀2年(1571)4月21日

成身院昨夜ヨリ虫也云々、

元亀2年(1571)5月7日

論へ出了、曉夢ニ夢数多拔了、先例不吉、沈思々々、

天正2年(1574)1月3日

(前略) 曉方ニ只一ツアリテ大切ナリシ齒抜了ト見ル、是一不吉也、余ハ大綱吉事共也、

天正4年(1576)1月16日

昨夜夢ニ、予牙齒於浄ルリ院之門抜キ居入ルニ、咽喉ツマルト見テ夢覺了、先例不吉、併自身滅亡ト覺、

天正4年(1576)8月13日

昨夜夢ニ、左ノ下ノヲク齒大ナル抜了ト見、先例不吉、如何、民部卿十一日死去、是歟、

天正5年(1577)4月6日

夜中ヨリ宿以之外齒ヲ痛ト申来間、則藥十包遣之、当年ハ度々煩之、命期来歟、沈思沈思、又牛玉円一具取ニ来之間遣之、

天正5年(1577)5月4日

四日、於金勝院報講師懃之、来題非是ニ界、口中煩散、平臥了、

天正5年(1577)5月5日

五日、節供如常、煩間不能社参、朝少雨下、頓テ止了、各如例来了、

天正5年(1577)5月6日

六日、口中煩平臥了、

天正5年(1577)5月7日

七日、口中煩、針沙汰之、血出、少減了

天正5年(1577)5月9日

口中煩干今無驗迷惑了，
 天正7年(1579)12月10日
 去六日坎西禪門於京都死去了，數年令知音，不便々々，身上也，無端，愚身夢ニ齒数多落ト見
 ツル是歟，但七日後ノ夢歟，前後如何，
 天正8年(1580)4月12日
 十二日，夢ニ大ナル下ノムカハ抜ルト見了，先
 例不吉如何，
 天正8年(1580)12月22日
 廿二日，此曉夢ニ……，又私ノ齒廿許上下オク
 マデ生ト見，令祝着ト見了，常如院ヘタ飯，思
 出了，
 天正9年(1581)1月1日
 先夜愚ムカハ抜ト見了，旧冬モ如何，先例不吉，
 如何，
 天正9年(1581)5月15日
 長賢坊昨日ヨリ齒煩間，今日藥合遣之，
 天正9年(1581)5月19日
 ……長賢，齒煩，アキ法橋ニ針治了，次ニ宝地
 院并善春虫クキハ針了，上々云々，
 天正9年(1581)5月20日
 今曉夢ニ，ムカ齒大ナル抜了ト見，先例大ニ不
 吉，如何々々，
 天正9年(1581)9月21日
 先夜夢ニ，ヲクハノ大ナル落，手ニ取レハ数多
 色青クアルヲ捨ト見了，先例不吉，如何，五月
 ハ廿日ノ朝ノ夢ニ，ムカハ抜ト見，妙徳院宗二
 死了，今度ハ身上歟，
 天正10年(1582)4月13日
 今曉夢ニ右ノ下ナル齒大ナル抜ト見，先例不吉，
 如何，
 天正10年(1582)8月30日
 卅日，ヒル子(ネ)ノ夢ニ，下ノムカ齒一度ニ
 三枚落ト見了，尤凶事也，
 天正10年(1582)11月14日
 昨夜夢ニ，大ナル齒抜ト見了，先例不吉，如何
 々々，
 天正12年(1584)正月小 朔日
 ……，此曉夢ニ愚下ノ向夢大ナル落ト見，先例
 不吉，如何，……
 天正12年(1584)4月29日

昨夜夢ニ，愚身上下齒悉少ツツ生出，アサヤカ
 ニアリ，又古キハ少キ一ツ落ト見了，生出タル
 ハ吉事，落タルハ先例不吉也，
 天正12年(1584)5月5日
 長賢房母久煩，今日未刻死去ノ由注進，俄下向
 了，去廿九日古齒落ト夢見シ，ハヤク七日ノ内
 ニ合了，
 天正12年(1584)5月10日
 後夜ノ後夢ニ，若宮御廊ヘ参ルニ，予下ノムカ
 ハ一ツ抜ヲ，入口ノナケシヘ上ルト見了，先例
 不吉，如何，
 天正13年(1585)5月1日
 一日，天氣快然社参之衆数多，今曉夢ニ愚身ヲ
 クハ少二ツ落ト見，先例不吉，如何，
 天正15年(1587)9月18日
 長善母去十二日ヨリ腫物目ノハタニ出来大事ト
 テ告来，
 日中過ニ又既死スル由申来間，雖中院参籠南ヘ
 下了，五十九歳也，去五六日ノ比歟，愚身ヲク
 齒落ト見了，先例不吉，如何由各各語了，是ニ
 テ可在之，……
 天正18年(1590)10月27日
 やと齒煩間，俄ニ藥取寄令調合遣了，人三一兩
 八十文ツツ也，一段高直ノ事也，
 天正20年(1592)10月9日
 九日，於京ナラ衆悉籠ヘ被入，少々ハ遊了トテ，
 又ナラ中ノ女房・子共皆々隠レ了云々，無尽期
 式也，過夜向齒大ナル抜了，先例不吉，但去八
 月廿日ニモ夢ニ見不吉，
 以上の記載を総括すると次の通りである。
 1. 記録総数 49
 2. 記録の分類
 1) 齒牙脱落等の夢 33
 2) 口臭に関心 1
 3) 自ら，齒科疾患に罹患 5
 4) 齒科疾患に回向 1
 5) 齒科疾患の治療に針 3
 6) 齒科疾患の治療に薬 6
 3. 特に，齒牙脱落の夢をはじめとして，齒科疾
 患への関心は，筆者，僧英俊48歳から75歳に至る
 あいだに集中して，49条中48条に及んでいる。

4. 就中、歯の夢を抽出して列記すると

永禄9年2月17日

9・3・16

9・8・3

9・10・25

10・11・7

11・1・23

11・2・10

11・3・16

11・11・24

12・11・27

12・12・8

12・12・18

13・1・4

元亀2・5・7

天正2・1・3

4・1・16

4・8・13

7・12・10

8・4・12

8・12・22

9・1・1

9・5・20

9・9・21

10・4・13

10・8・30

10・11・14

12・1・1

12・4・29

12・5・5

12・5・10

13・5・1

15・9・18

20・10・9

となつて、周期的に襲う歯の夢は、自身の全身の健康状態の良否に伴う。口腔内症状の消長をうかがうことができるようである。

5. 歯牙脱落の夢は不吉とする。脱落した下歯を屋根のひさしに投げる。等の慣習は、すでに記載されている。

6. 近世に流布している歯に関する民間伝承を、ひとまず文献上に証明することができる。

7. 医師または口科医の他に、歯痛に薬治・針治

を試みる民間医療も、その源流を見出すことができた。

兼見卿記

全18冊、東京大学史料編纂所所収、元亀元年——4年、天正5年——8年、静嘉堂本天正3年——20年、京都、吉田神社所伝、吉田兼見卿の日記、その1部を披見して次の記事を発見した。

天正8年(1580)8月25日

壬辰、早々退出、相煩口中向進藤豊後所療治了、

天正8年(1580)8月26日

発已、以外発痛了。

天正8年(1580)8月27日

甲午、口中同篇之間、今夜二条殿清祓難成之由勸黄門へ申遣了。

宗源行事一座修業之内口中之脹痛平癒誠奇特吉事之興也。

天正9年(1581)4月26日

当番早々退出、直ニ進藤豊後守所へ罷向、相煩ニ口中ニ之間、令ニ療治ニ拔ニ痛齒ニ也。

とあって、進藤豊後守は口中科医師であった確証はないが、居を構えて、口中の療治にあたり、抜歯をもおこなっていたことがあきらかである。

鶴斎日録

杉田玄白の日記。天明7年——文化2年、玄白55歳——73歳に至る記録である。次の1項が発見できた。

文化元年(1804)7月24日

入歯出来。

72歳にしてこの簡明な記事は、義歯完成のよろこびが目につくようである。

3

以上を総括して

I わが国の歯科衛生についてみると

1) 咀嚼機能の低下は、直接短命につながることを充分認識していて、歯科疾患を恐れ、歯の健康をねがう気持を、年頭にあって歯固の儀であらわそうとした。

2) 小児には、歯固の儀とおなじ理念による戴餅の儀をおこなった。

3) 正しくは、正月3ケ日ともおこなったようで、簡素化して元旦のみの場合もあったようである。

4) したがって、大晦日には歯固餅の準備をした記事もある。

5) 歯固は歯堅とも記されている。

Ⅱ わが国の歯科医療についてみると

1) 歯科疾患に対する関心として、歯の脱落した夢をみ、その夢の吉凶を案じている。

2) 歯ウック・御歯令悩御等の記事があって、歯痛になやむ記事も多い。

3) わが国の歯科医療に関する基本は、すべて網羅されていると云える。

Ⅲ 異形式抜歯鉗子に関する研究を目標とするわたくしにとって

1) 取歯と云う語のニュアンスと抜歯との相違を考える必要がある。

2) 女医博士すなわち医師が取歯にあたっている。(玉葉)

3) 市井の一老嫗が取歯を業としている。(明月記)

4) これは、医師にあらざる者が取歯にあたった事例として興味ふかい。歯抜き之源流あるいは祖形とみることも可能となった。

5) 山海經等にみえる、中国鑿齒の門牙二歯を抜去する風習とその作業にたずさわる老嫗との関係は余程深いものと考えられる。